

1. 教育の責任

健康栄養学部では、「食」を通じて人々の健康および生活の質の向上を支援する管理栄養の専門家として、医療、福祉をはじめ、スポーツ、学校、企業など幅広い分野で社会に貢献できる人材の養成を目標としている。学生は4年間の学びや課外活動、ボランティア活動を通じて、社会に貢献できる健康と栄養の専門家としての能力・素養備えることが求められています。この目標を達成するための教育の一環として、生化学分野を専門とする本教員は以下の教科の講義を担当し、学生教育に取り組んでいる。

「生化学Ⅰ」（講義、栄養学メジャー必修科目、1年生秋学期、2単位、82名）

「生化学Ⅱ」（講義、栄養学メジャー必修科目、2年生春学期、2単位、87名）

「生化学実験Ⅰ」（実験、栄養学メジャー必修科目、2年生秋学期、1単位、86名）

「生化学実験Ⅱ」（実験、栄養学メジャー必修科目、3年生春学期、1単位、87名）

「キャリアデザインⅠ」（演習、総合必修科目、春学期、2単位、21名）

「キャリアデザインⅡ」（演習、総合必修科目、秋学期、2単位、21名）

「特別演習Ⅱ」（演習、栄養学メジャー選択科目、3年生秋学期、2単位、84名オムニバス）

「管理栄養士特論Ⅰ」（演習、栄養学メジャー選択必修科目、4年生春学期、2単位、55名オムニバス）

「管理栄養士特論Ⅱ」（演習、栄養学メジャー選択必修科目、4年生秋学期、2単位、55名オムニバス）

2. 教育の理念

将来、管理栄養士として様々な分野で活躍するためには、様々な問題に対し、科学的な事実に基づいて対処していく能力が必要である。人体や様々な疾患、栄養学、食品学などを科学的に理解し、説明するために一番基本となる学問が生化学であると考えている。高等学校までに化学や生物をしっかりと学習できていない学生が多い中、専門的な学習に繋げるため、基礎的なことから、また関心や興味を高める教育を心がけている。管理栄養士国家試験対策では、近年の出題の傾向を分析し、効率よく、また生化学分野だけでなく、関連分野の学習につなげるような授業にしていきたい。

3. 教育の方法

生化学関連の授業は、生化学Ⅰ、Ⅱの講義で習得した知識をその一部ではあるが生化学実験Ⅰ、Ⅱの実験科目で実際に体験することで、管理栄養士として必要な知識を科学的な根拠を持って使える能力を養うことを目的としている。

生化学Ⅰ、Ⅱの講義では、学習目標や学習内容をシラバスなどで提示し、授業でも繰り返し説明している。

講義では、教科書とその内容や関連情報を分かりやすく説明したパワーポイント資料を併用し、学習の習得状況は、クイズや課題レポート、知識整理用のまとめ資料などを併用して確認している。授業の最初で前回の授業の振り返りを行なっている。まとめテストの前には、全範囲の振り返りや習得してほしい内容の再確認を行なっている。

実験科目である生化学実験Ⅰ、Ⅱでは、シラバスで学習目標や内容を提示し、ただ実験作業するだけでなく、内容の理解を促すようにしている。実験科目では、できるだけ各班を周り、学生の興味関心や学習意欲の向上に努め、それぞれが積極的に実験に取り組めるような雰囲気づくりに務めている。実験技術や関連知識の習得状況は1まとまりの実験ごとにレポート課題により確認している。

国家試験対策では、過去に実施された国家試験や模擬テストの分析を行い、できるだけ効果的に試験対策できるような講義資料の作成に努めている。国家試験対策では、分野の知識の再確認、練習問題による学習状況の確認、苦手分野の洗い出しと重点的な講義を繰り返し行っている。

今後、よりリアルタイムにまた双方向にしていきたいため、ICTを活用した小テストやクイズなどに取り組んでいきたい。また常に新しい情報や講義手法の習得に努め、教育の改善に努めたい。

学生には、苦手意識を持たず、わからないことをそのままにせず積極的に学習に取り組んでほしい。将来、管理栄養士として科学的な根拠に従った仕事をしてほしいと期待している。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：健康栄養学部 名前：松岡 大介 作成日：2026年1月30日

4. 教育の成果

教育の成果は、講義形式の授業では、まとめテストや小テストにより学習の習得状況を確認している。基準に達していない学生については、学習のアドバイスをした上で、再テストを行い基準に達したものについて単位の認定を行なっている。実験系の授業では、実験ごとに提出するレポートで学習の成果を確認するとともに、レポートのフィードバックを行い、学習効果の向上に務めている。また学生の興味や関心、また授業に対する評価は、学生アンケートを参考にして教育内容の見直しや改善を図っている。

国家試験対策では、その学習効果を模擬テストやその再テストなどで評価し、授業内容の改善に努めている

5. 改善への努力と今後の目標

学生の学習状況の把握や興味関心を高めるため、学生への声かけや質問しやすい雰囲気づくりに務めている。実験系科目であれば、それぞれの班をまわり、学生の取り組み状況や理解度、興味関心度を確認し、高める声かけや雰囲気づくりを行なっている。これらの活動を通じて、生化学分野への興味関心を高め、学習成果の向上に務めている。国家試験対策については、より効果的な学習教材や講義資料の作成に努め、生化学や関連分野の成績向上につなげたい。

【添付資料】

- ・生化学Ⅰ、生化学Ⅱ、生化学実験Ⅰ、生化学実験Ⅱのシラバス
- ・同上科目講義資料（非公開）
- ・学生授業アンケート